

## 研究主題「言語活動の充実を図り『思考力・判断力・表現力』を育成する指導法の開発 —地域学習における実践を通して—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
練馬区立石神井小学校 教諭 高瀬 隆太郎

### 第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）によると、第1章総説、2社会科改訂の趣旨、(ii)改善の具体的事項に「地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深め、社会的な見方や考え方を養い、身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視して改善を図る。」と示されている。

社会科学習においては、社会的な見方や考え方を養うことが大切である。そのためには、社会的事象について調べ、考え、表現する活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力を高めることが重要となる。そこで、言語活動を充実させ、社会科学習の改善を図る必要があると考えた。とりわけ、小学校第3学年及び第4学年の地域学習においては、体験的な学習や資料の効果的な活用を通して、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの社会科における基礎的な力を身に付けさせ、小学校第5学年及び第6学年・中学校の社会科学習につながる指導が大切である。

本研究では小学校社会科の教科目標の達成に向け、地域学習における言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する指導法の開発及びその有効性の検証をねらいとした。

### 第2 研究の内容と方法

#### 1 研究の仮説

社会科における言語活動で身に付けさせる力を明確にし、その育成を図る手だてを地域学習の指導計画に意図的・計画的に位置付け、指導することで、児童の思考力・判断力・表現力を育成することができるであろう。

#### 2 基礎研究

言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成するために、小学校学習指導要領解説社会編、第1章総説、2社会科改訂の趣旨を基に、「言語活動で身に付けさせる6つの力」を明らかにした。そして、第3学年及び第4学年の各内容における思考力・判断力・表現力と言語活動との関連について分析表にまとめた。この表を作成したことで、言語活動で身に付けさせる力の定義や、それに関連する具体的な学習活動について明らかにし、指導計画の作成に役立てた。

##### 【社会科における言語活動で身に付けさせる6つの力】

- ① 観察・調査する力
- ② 資料から必要な情報を集めて読み取る力
- ③ 資料から読み取った情報を的確に記録する力
- ④ 比較・関連付け・総合しながら再構成する力
- ⑤ 考えたことを自分の言葉でまとめる力
- ⑥ 自分の言葉でまとめたことを伝え合う力

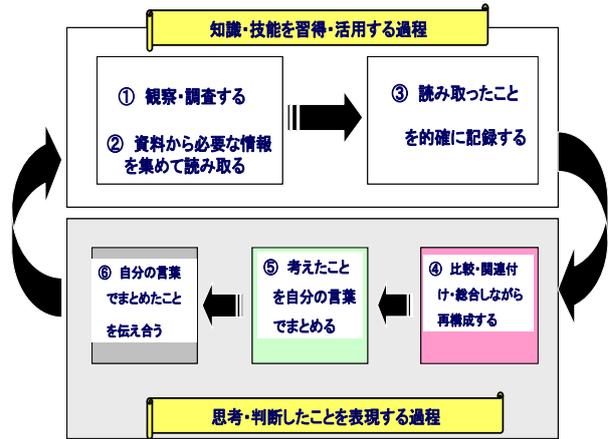
#### 3 調査研究

平成22年7月に都内公立小学校第4学年の児童を対象に、社会科学習に対する意識調査を行った。苦手な学習については、「考えを書く」学習と回答した児童が最も多かった。また、自分の考えを伝え合う学習は、約40%の児童が「できていない」と回答していた。「考えを書く」「考えを伝え合う」学習に苦手意識をもつ児童が多いことが明らかとなった。特に社会科が「苦手である」と回答した児童の約70%がこれらの学習に苦手意識をもっていることが分かった。

#### 4 開発研究

##### (1) 言語活動の充実を図り「思考力・判断力・表現力」を育成するための指導計画の作成

学習の流れを考えるにあたり、「言語活動で身に付けさせる6つの力」を大きく2つに分類した。まず、①②③は主に社会科の学習における知識・技能を習得・活用し、思考・判断したことを表現する活動に結び付けるために必要な力であると捉える。対して、④⑤⑥は思考・判断したことを表現する言語活動、つまり、思考力・判断力・表現力の育成と直接的につながる言語活動と捉える。



実際の授業では、始めに①②③の力を身に付けさせるための手だてを学習に取り入れることを通して、児童は知識・技能を習得・活用し、思考・判断する。次に④⑤⑥の力を身に付けさせるための手だてを学習に取り入れることを通して、思考・判断したことを表現する。このような学習指導の流れを意図的・計画的に取り入れた指導モデルの開発が必要であると考えた。そこで、地域学習の単元において指導計画を作成し、検証授業を行い、その有効性を検証した。

言語活動で身に付けさせる6つの力の定義と手だて

<p>① 観察・調査する力 ○ 知識や技能を生かし、視点をもって見学・調査に取り組む力 <b>手だて</b> ・ 質問の視点の提示 ・ 見学の視点をもたせる ・ インタビューの話し型の提示</p>	<p>② 資料から必要な情報を集めて読み取る力 ○ 視点をもって資料を読み取る力 <b>手だて</b> ・ 資料を読み取る視点（比べて違うところや似ているところなど）を提示する</p>	<p>③ 資料から読み取った情報を的確に記録する力 ○ 思考・判断した内容を分類・整理して、まとめる力 <b>手だて</b> ・ 読み取った内容をノート等に分類・整理する方法を例示する ・ 記録する時の文型を提示する</p>
<p>④ 比較・関連付け・総合しながら再構成する力 ○ 考えたことについて話し合い、比較したり、関連付けたりして、まとめる力 <b>手だて</b> ・ 友達の意見を聞いて、なるほどと思ったことを記録する ・ 友達の意見と比べ、改善したい部分を訂正させる</p>	<p>⑤ 考えたことを自分の言葉でまとめる力 ○ 思考・判断した内容を文章で表現する力 <b>手だて</b> ・ キーワードを活用し学習のまとめを文章で書く ・ 考えの書き方を文型で示す ・ 友達の発表を聞いて深まった考えをノート等に付け足す</p>	<p>⑥ 自分の言葉でまとめたことを伝え合う力 ○ 自分の考えを伝え合い、考えを交流することにより、お互いの考えを深める力 <b>手だて</b> ・ 少人数による話し合う場の設定 ・ 発表の仕方を話し型で示す</p>

##### 言語活動の充実を図るための手だてを取り入れた指導計画例 \* 「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」一部抜粋

思考・判断する内容 → 玉川上水の水は、なぜ分水によって分けられたのかについて考える。

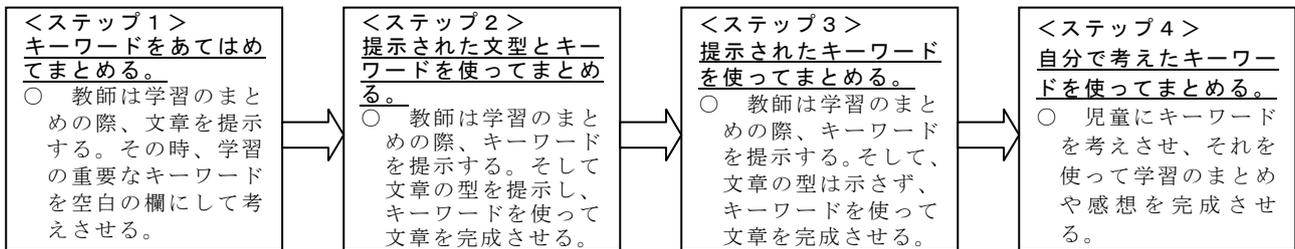
○学習活動 □資料	●言語活動の充実を図るための手だて 言語活動で身に付けさせる力
<p>○ 玉川上水が完成した後、どのように変化したか、資料を比較し、気付いたことをノートに記録する。</p> <p>□ 玉川上水ができたころの水路図と60年後の水路図</p>	<p>● 資料の着目点を与えて考えさせる。 「2つの図で違うところはどこか。」 「違う地域はどこか。」 「知っている名前はないか。」 <b>② 資料から必要な情報を集めて読み取る力</b></p>
<p>玉川上水は完成して60年後、どのように変化したのでしょうか？</p> <p>○ 玉川上水ができたころの水路図と60年後の水路図を比較して気付いたことについて話し合う。</p>	<p>● 2つの水路図を比較し、気付いたことをノートに記録する際、文型を提示する。 <b>③ 資料から読み取った情報を的確に記録する力</b></p>
<p>なぜ分水がつくられたのでしょうか？</p> <p>○ なぜ分水が作られたのかについて予想したことをノートに書く。</p> <p>○ 予想したことを発表する。</p>	<p>● 予想したこと（自分の考え）をノートにまとめる際、文型を提示する。 <b>⑤ 考えたことを自分の言葉でまとめる力</b></p>
<p>話型「分水ができたのは○○だからだと思います。理由は××だからです」</p>	<p>● 隣同士で意見を交換させる。(二人で) ● 意見交換の際、話し型を提示する。 <b>⑥ 自分の言葉でまとめたことを伝え合う力</b></p>

(2) 言語活動の充実を図り「思考力・判断力・表現力」の育成を図るための指導の手だて

ア 思考・判断したことを自分の言葉でまとめるための工夫（キーワードの活用）

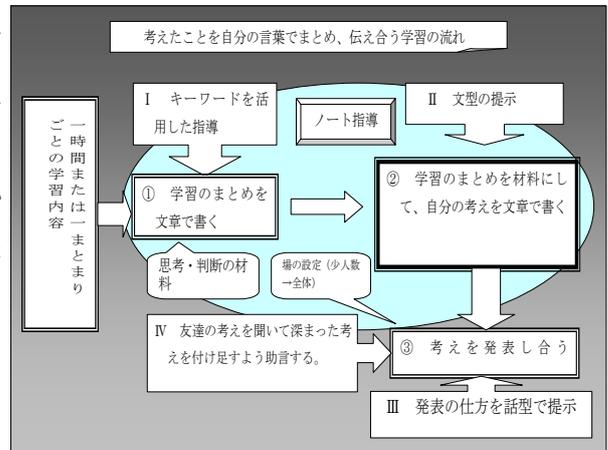
「考えたことを自分の言葉でまとめる力」を育成するために書く指導の充実を図った。自分の考えを言葉でまとめるためには、思考・判断するための材料が必要である。思考・判断するための材料は学習した内容が基になると考える。つまり、学習内容を言葉でまとめ、整理することが大切であると考えた。そこでまず、資料を読み取ったり、思考・判断したりしたことをノートに整理してまとめる方法について指導を行った。次に学習のまとめを文章で書き、それを材料にして自分の言葉で考えを文章でまとめる活動を継続的に取り入れた。学習のまとめを文章で書く際には、キーワードを段階的に活用して文章にまとめる指導を行った。また、最後に友達のことを聞いて深まった考えをノートに付け足してまとめるなどの指導を行った。

一時間または、ひとまとまりごとの学習内容におけるキーワードを活用した学習のまとめの段階的指導



イ 思考・判断したことを伝え合うための工夫

「自分の言葉でまとめたことを伝え合う力」を育成するためには、自分の考えをまとめた内容を生かして伝え合い、互いの考えを深めることが大切であると考えた。そこで、発表内容を相手に分かりやすく伝えるために、話型や文型を例示し、根拠をもって自分の考えをまとめ、発表することができるよう指導した。その際、思考・判断させるための視点を明確にして話型や文型を例示した。また、話し合いでは、少人数で考えを伝え合い、その後に全体で伝え合う活動の場を段階的に設定し、指導にあたった。



文型・話型の例（調べて疑問に思ったことを書いたり話したりする）

<p>?(資料などを調べて)疑問に思ったこと</p>	<p><u>ノートに書く時の文型</u></p> <p>【基本文型】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ〇〇は△△なのだろう？</li> </ul> <p>&lt;数値に注目した疑問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ〇〇は△△が多い(少ない)なのだろう？</li> </ul> <p>&lt;2つの事象を比較して生まれた疑問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ〇〇は△△なのに××は□□なのだろう？</li> </ul>	<p><u>発表する時の話型</u></p> <p>「疑問に思ったことは&lt;ノートに記録した内容(なぜ～なのか)&gt;ということです。」</p> <p>「なぜ〇〇は△△が多い(少ない)なのだろうと思いました。」</p> <p>「なぜ〇〇は△△なのに××は□□なのだろうと思いました。」</p>	<p><u>思考力・判断力・表現力との関連</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数や量に注目して調査する。</li> <li>他の事象と対比しながら観察・調査する。</li> </ul> <p>(小学校学習指導要領解説社会編第3章各学年の目標(3))</p>
----------------------------	---	---	--

### 第3 研究の成果

#### 1 思考・判断したことを自分の言葉でまとめる指導（キーワードの活用について）

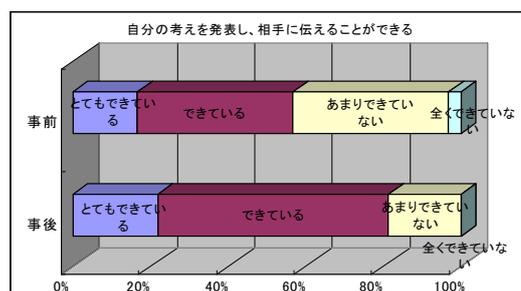
検証授業では、キーワードを活用して学習のまとめを書き、それを基に学習感想を書く指導を段階的に実践した。回数を重ねるごとに児童は学習のまとめの文章を書くことができるようになった。まとめを生かした学習感想には、思考・判断した内容を理由や根拠を入れ、相手に伝わるような文章を書く姿が見られた。また、まとめの文章を書くことができなかつた児童については、文型などをヒントカードとして提示し、指導・助言を行うなど、個に応じた指導を行うことにより、考えを言葉でまとめることができるようになった。小学校第3学年及び第4学年の発達段階においては、キーワードの活用は思考を促す手だてとして有効であった。

#### 【検証授業】「地域の発展に尽した先人の具体的事例」 観察対象児童Aの記録 \*四角はキーワード

	ステップ1 (学習のキーワードを文章にあてはめて書く)	ステップ2 (キーワードと文章の型を提示して書く)	ステップ3 (キーワードを提示してまとめの文章を書く)	ステップ4 (キーワードを考え、文章を完成させる)
学習のねらい	練馬区には千川上水という人工の川があることについて知り、興味・関心をもつ。*「千川上水」は玉川上水の分水のこと。	玉川上水の水路はどのようにして決められたのかを調べることを通して、玉川兄弟の工夫や努力について考える。	玉川上水の水は四谷大木戸から先、どのようにして江戸の町に配られたかを調べることを通して、昔の人の知恵や工夫に気付く。	これまでの学習を振り返り、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について考える。
学習のまとめ	『千川上水』は約300年前に作られた人工の川で、飲み水や田畑の水として、江戸や練馬の人々に使われていました。』	『玉川兄弟は(多摩川から水を取り入れ、江戸に水を送るために、羽村から四谷大木戸まで43kmの)玉川上水を作る計画を立てた。』	『玉川上水の水は、木や石の水道管を通して、江戸の町まで送られていた。』	<単元の学習感想> 『玉川兄弟や千川兄弟が中心となって玉川上水を作ったことは、人々の生活に大きく役立ったことがわかりました。この学習を通して、昔の人が水を大切にしていたことがわかりました。だから、わたしも水を大切にしようと思いました。』 *一部抜粋
学習感想	『人の力だけで千川上水を作るなんてとくべえとたへえはすごい人だと思った。』	『玉川上水はすごく時間をかけて苦労をして作ったんだなと思いました。』	『私は江戸の町に水を通す仕組みについて学習して、昔の人はすごいなと思いました。理由は江戸の人々が工夫して水道管を作ったことがわかったからです。』	
児童の活動の分析	キーワードを活用してまとめの文が書けている。しかし、学習感想の内容は抽象的で、自分の考えが入っていない。	文型にキーワードをあてはめてまとめの文が書けている。学習感想はねらいに則した記述が書かれているが、具体的な根拠や理由は書かれていない。	提示されたキーワードを使ってまとめの文が書けている。学習感想には自分の考えとその理由を具体的に書くことができています。	キーワードを考え、学習内容を総合的に捉えた内容を書くことができています。水を大切にする気持ちも書かれており、地域の一員としての自覚に関わる内容も見られた。

#### 2 思考・判断したことを伝え合う指導

検証授業では、思考を整理した記述内容を活用したり、話型を活用したりして発表する児童が増えた。また、伝え合う場を少人数の場から全体の場へと段階的に設定したことで、思考・判断した内容を伝え合う機会が増え、考えを深めることに役立てることができた。



検証授業後の調査では、自分の考えを相手に伝えることについて、「とてもできている」「できている」と回答した児童の合計の割合が、事前調査の54%から80%に増加した。また、児童の記述には「話型を参考にして発表できた」「2人(少人数)で考えを伝えると発表しやすい」「友達の考えが参考になった」などの記述が見られ、有効な手だてとなったことが分かった。

#### 第4 今後の課題

- 本研究を生かし、社会科の「思考・判断・表現」の評価の内容・方法の開発をする。
- 地域学習で効果のあった内容を工夫し、小学校5・6年の社会科の指導モデルを作成する。